令和7年度　大田区立糀谷小学校　自己評価　報告書

令和8年3月14日

○　本校の概要

1　令和7年度は、16学級で児童446人、正規の教職員25人で、大田区の区立学校として求められる教育活動を推進する。
2　大田区人権教育研究協力校として、全学年において人権教育を推進する。大田区教育委員会独自教科新設に向けた研究実践校として、令和7年度より区独自教科「おおたの未来づくり」の年間指導計画、指導内容の研究に取り組んだ。今年度は「深い学び」に焦点を当てて、校内研究を行っていく。
東京都教育委員会「小学校教科担任制等推進校」の指定を受け、高学年に教科担任制を導入する。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	児童アンケート「学習の内容が分かるようになってきている」の5年生、6年生の肯定的な回答の割合	4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:65%未満	4	全学年では89%の児童が肯定的な回答を示した。また、5年、6年では、約82%が肯定的な回答を示した。 教科担任制で授業を行うことで、「学習内容が分かるようになった」と回答した児童は85.3%と、学習の定着に有効であった。一方で、「難しい問題にも進んで挑戦している」と回答した児童が69%であった。自主的に取り組む力の向上を図っていきたい。 情報技術を活用した教育については、利便性や効率性は高まっているが、利用の仕方に課題があるため、利用についてのモラル教育が必要である。	A B C D	2	・教科担任制などで学習能力が向上することは良いことである。ただ情報技術が向上により、学習に対する向上心や興味が半減するのがこわい。 ・自ら考え判断する力や他者と協働していく力をしっかりと育んでいただきたい。 ・急速に発展する情報技術については、基礎技能や基本的モラルをしっかりと身に付けてほしい。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		④5、6年生に教科担任制を導入し、教師は自分の担当教科の専門性を高め、児童に対し学力定着を図る教科指導を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標2 世界とつながる国際都市を担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート「外国語や社会の授業を通し、日本のことだけでなく、世界のことについても興味をもつようになってきている」の4年生から6年生までの肯定的な回答の割合	4:85%以上 3:80%以上 2:75%以上 1:70%未満	1	4～6年の児童では68%の児童が肯定的な回答を示した。初めての目標に対して、成果指標の数値を高く設定していたため、評価は1となる。4年生をの社会の学習は東京都の学習を中心としているため、日本のこと、世界のことを問うことは難しかったと考える。また、5年、6年の学習において、世界との関連をトピックとして多く取り入れていくことが大切である。 各教科の特性を生かしつつ、日本と世界を比べて捉える見方を取り入れ、違いだけでなく共通点にも目を向ける姿勢を授業全体で育てていくことで、肯定的な回答の割合を増やしていきたい。	A B C D	2	・学校全体で、外国語を含む外に対する取り組みが弱いのではないか。未就学児でも外国語など取り組む現在において、もう少し取り組み方を強化するべきでは。 ・実践的な授業を通して、現実を直視し、地域環境等への問題意識を深めてほしい。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2							
		④外国語専科教員を導入し、次学年を見据えた、系統的な外国語の指導を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2							
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート「本校で教員が指導した『糀谷小のきまり』を児童が理解している。」の肯定的な回答の割合	4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:65%未満	1	肯定的回答の割合(「わからない」は除く):68%、否定的回答の割合(「わからない」は除く):32%、わからない(全回答のうち):15%であった。1年に1回の振り返りではなく、学期ごとの振り返り等、「糀谷小のきまり」を何度も読む機会を増やしていくことが必要であると感じた。 糀谷小のきまりが十分に定着していないと同時に、きまりの周知徹底が図られていないことがうかがえる。一人でも多くの児童がきまりを身に付けられるように、保護者や地域と協力してきまりの定着に取り組んでいく。	A B C D	1 1	・「糀谷小のきまり」をより多くの機会において児童に伝えるべきである。知ってて実施しないのと、分からず(知らずに)実施しないとは、大きな違いがある。 ・人の一生の中で心・技・体の基礎は、小学生の時期に大きく培われる。乳幼児期から高校に至るまでの一貫した教育を計画的に進めていただきたい。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		⑤本校の教員はこどもたちの規範意識が高まる生活指導を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							

個別目標４ 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「お子さんは、学校での学習を楽しんでいる」の肯定的な回答の割合	4:85%以上 3:80%以上 2:75%以上 1:70%未満	3	肯定的回答の割合(「わからない」は除く):82%、否定的回答の割合(「わからない」は除く):18%、わからない(全回答のうち):6%であった。概ね学習の状況はこどもたちの実態に応じた工夫ある授業を評価されている。 「とても思う」「思う」と回答した保護者の割合は76.4%であった。児童の回答が下学年93.2%、上学年が86.7%と、児童と保護者の認識に差がある。学校での学習を楽しんでいるということが、保護者に伝わっていないのではないかと考える。学校公開の様子だけでなく、家族間で交わす会話の中から、学校での学習の様子や生活の様子が保護者へ伝わるように、授業における教師の発言や学習活動を今後も開発していく必要がある。	A B C D	2	・教師の人数が少ない中、工夫した授業を行うなど努力していると思われる。保護者がどういっていたかなど家族の中でのコミュニケーションがとれるよう児童に問いかけてほしい。ただ教師の精神的な(環境も含め)状況を改善してほしい。 ・厳しい労働環境の中で、先生方はよく頑張っていると感じます。引き続き、人材の補強や労働環境の改善を進めていただくとともに、常に前向きに指導力の向上に向けた努力をお願いいたします。特に校長先生、副校長先生の過重負荷が心配です。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3								
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	2								
		④本校の教員は、着実に指導力を向上させ、責任感と笑顔をもって、こどもたちを指導している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3								
個別目標５ 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「本校はサポートルームの指導や個に応じた支援について、担任や支援員を通じ、周知している。」の肯定的な回答の割合	4:85%以上 3:80%以上 2:75%以上 1:70%未満	2	肯定的回答の割合(「わからない」は除く):85%、否定的回答の割合(「わからない」は除く):15%、わからない(全回答のうち):17%であった。サポートルームに対する保護者の関心が高まっており、特別支援教育の重要性を理解し始めていると考えられる。 「とても思う」「思う」と回答した保護者の割合は71.9%であった。学習集団の中で個別学習やグループ活動において、つまづきを発見した際には教師から保護者に適宜、伝えてきている。今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、専門員等を通して、保護者へ周知し、個に応じた支援について理解を図っていく。	A B C D	2	・最近の児童は精神的な弱さや疾患をもつ子が多いような気がする。サポートルーム・スクールカウンセラーなど、もっと保護者にもアピールして活用してもらいたい。 ・保護者責任をしっかりと認識していただき連携を取りながら、相談しやすい相談体制づくりを築いていただきたいと思います。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3								
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3								
		④サポートルームの指導や個に応じた支援について、担任や専門員等を通して、学校は周知し、理解を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4								
個別目標６ 柔軟で創造的な学習空間と安心・安全な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート「登校時、教員は校門そばに立ち、安全を守るとともに挨拶をしている。」の肯定的な回答の割合	4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:65%未満	4	肯定的回答の割合(「わからない」は除く):92%、否定的回答の割合(「わからない」は除く):8%、わからない(全回答のうち):17%であった。毎朝、各門において、教職員が挨拶している様子を見ていることから、肯定的な回答が多かった。安全が守られるように継続していく。 本校では、登校時間における代表委員会の挨拶運動と、週番の教員による児童の見守り活動を毎朝行っている。こうした取り組みを今後も継続していき、肯定的な回答の割合の向上を図っていきたい。	A B C D	1 1	・朝、児童に対して声を掛けることは、とても良いことだと思う。これからも、継続してもらいたい。 ・災害における学校の役割は、増々大きなものになっている。関連する様々な活動や行事に、学校側児童の上級生が参加・協力のあり方について検討していただきたい。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4								
		④登校時、教員は校門そばに立ち、安全を守るとともに挨拶をしている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4								
個別目標７ 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「本校は、地域やPTA、保護者の活動に協力的である。」の肯定的な回答の割合	4:85%以上 3:80%以上 2:75%以上 1:70%未満	4	肯定的回答の割合(「わからない」は除く):92%、否定的回答の割合(「わからない」は除く):8%、わからない(全回答のうち):10%であった。こどもたちが参加する地域行事のほとんどに教職員が積極的に参加をし、地域や保護者と関わり合うことができている。このことを評価されていると考える。	A B C D	1 1	・児童は積極的に参加する子が多いと思う。ただ休日においてまでも教師に負担がかかるのはどうかと思う。もう少し地域を良い意味で活用して、力を借りるべきではにないか。 ・学年を越えた交流を促進し、上級生や児童一人一人にリーダーシップをもたせる環境を築いていくべきだと考えます。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3								
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3								
		④教員は、PTA活動や地域活動に積極的に参加し、昨年に比べ、相互の連携を深め、こどもたちの健全育成に取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2								

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である　B:自己評価はおおむね適切である　C:自己評価は適切ではない　D:評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す